

群 教 セ	G02 - 02
	平27.257集
	社会 - 小

より良い社会の形成に参画しようとする 児童の育成

— 事象を比較・関連付け、社会の課題と解決策を考える
『DOシート』の活用を通して —

特別研修員 田村 啓祐

I 研究テーマ設定の理由

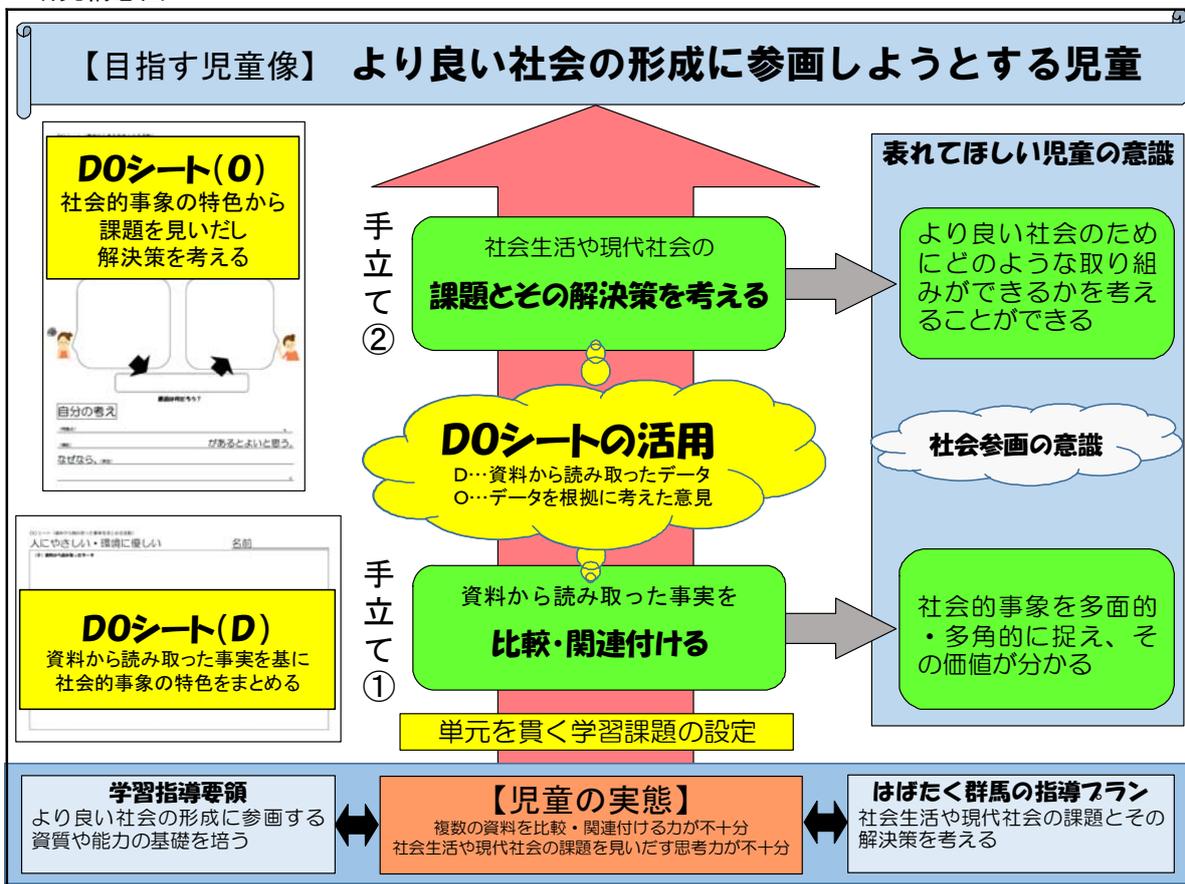
学習指導要領の社会科改訂の趣旨には「社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、より良い社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視している」と示されている。また、「はばたく群馬の指導プラン」では、社会科の課題の一つに「社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えること」と示されている。これらのことから、身に付けた知識や技能を活用し、社会生活や現代社会の課題と解決策を考えることが重視されていることが分かる。

本学級の児童の多くは、基礎的資料から事実を読み取ることができる。しかし、複数の資料を比較・関連付けることや、読み取った事実から社会生活や現代社会の課題と解決策を考えることに課題が見られる。また、教師によるこのような資質や能力を育成するための授業の具現化が十分にできていない。これらのことから社会的事象に対しての価値を判断し、主体的に関わろうとすることのできる児童は少ないと考える。

そこで、『DOシート』を活用し、複数の資料から読み取った事実を比較・関連付け、社会生活や現代社会の課題と解決策を考えることで、より良い社会の形成に参画しようとする力を培うことができると考え、上記の研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1)実践1「さまざまな土地のくらし」

- ①『DOシート (D)』を活用し、複数の資料を読み取り、読み取った事実を比較・関連付けることで、沖縄県の特徴を捉える。
- ②『DOシート (O)』を活用し、資料から読み取った事実を基に、沖縄県の特徴をまとめ、外国人向けの紹介文に表す。

『DOシート』とは「D：データ＝資料から読み取った事実、O：オピニオン＝読み取った事実を根拠に考えた自分の意見」をまとめるワークシートである。実践1では『DOシート』を活用し、複数の資料から読み取った事実を比較・関連付けることで、沖縄県の特徴を捉えることができた。しかし、外国人向けの紹介文に表す活動では児童にとって身近に感じるができなかつたり、沖縄県の特徴をまとめるだけにとどまったりして、社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えるまでに至らなかった。そこで、実践2では新たに以下の改善点を付け加えた。

(2)実践2「自動車工業のさかんな地域」

- ①『DOシート (D)』を活用し、児童が身近に感じられるよう、自分の生活や既習事項を振り返りながら課題設定をし、生活経験や知識を活用しながら比較・関連付けを行い、現在の自動車社会の特徴をまとめる。
- ②『DOシート (O)』を基に現在の自動車社会が抱える課題を見だし、その課題を解決できる未来の自動車や、未来の自動車社会について考える活動を取り入れる。

実践2では、既習事項である「現在開発されている自動車」について振り返った後、自動車会社の人からの手紙を提示し児童に疑問を持たせることから課題を設定した。その後、比較・関連付けを行い、現在の自動車社会の特徴をまとめた『DOシート (D)』を基にしながら、現在の自動車社会が抱える課題を見だし、その解決に向けた未来の自動車を考え、紹介カードを作成する学習を行った。学習を進めていく中で、自動車の機能以外にも課題を解決するための手段があることに気付き、今私たちが取り組めることについて考えることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 『DOシート (D)』を活用し、複数の資料から読み取った事実を基に比較・関連付けを行ったことは、児童が社会的事象の特徴をまとめ、意味を理解するために有効であった。
- 『DOシート (D)』にまとめた事実や社会的事象の特徴を基にして、『DOシート (O)』を活用したことで、社会生活や現代社会の課題を見だし、原因を明らかにしながら解決策を考えることができた。
- 社会的事象の特徴をまとめてから課題とその解決策を考えたことは、社会的事象を身近に捉え、より良い社会の形成に参画しようとする力を培うことに有効であった。

2 課題

- より良い社会の形成に参画しようとする力を培うためには、現代社会の課題とその解決策を考えることが必要である。そのため、資料から読み取った事実を比較・関連付け、社会的事象の特徴をまとめること、その社会的事象の特徴から現代社会の課題を見だし、その課題の解決に向けてどのような取組ができるかを段階的に考えることができる学習過程を構想していくことが必要である。
- 『DOシート (D)』に使用する資料を精選したり、調べる観点を与えたりして、的確な比較・関連付けができるようにする必要がある。

まとめの場面では、比較・関連付けを通してまとめた特色を基に、沖縄県を紹介する文章（前頁図2）を作成した。児童が考えた紹介文は以下のとおりである。

- S1：沖縄県は一年を通してあたたかいので、気候に合わせた作物が育てられたり田植えを二回行ったりします。観光面では首里城やきれいなビーチ、沖縄県にしかいない動物などがあります。家には暑さに備えた工夫が多くあります。また、台風が多く、昔の家や現代の家にも台風に備えた工夫がしてあります。また、降水量が多く、九月が一番多いです。雨は多く降りますが、山が少なく川が短いので、雨水がすぐに流れるので水不足になりやすいです。家に給水タンクや水がめがあり、水不足に備えた工夫があります。
- S2：沖縄県は一年を通してあたたかく、台風が多い県です。なので、あたたかい土地を好む「さとうきび」や、あたたかいのでだんぼうがいらない「こぎく」などを作っています。それに、「アメリカ軍基地」「地下ダム」「首里城」などがあります。あたたかい気候なので田植えが二回あって一月にサクラがさきます。昔の家にはふくぎや石がきなどがあります。自然が豊かです。
- S3：沖縄県は気候が一年を通してあたたかく、台風が多いです。そして、あたたかいため田植えが二回あり、一月にサクラがさきます。降水量が多く、特に九月が多いです。暮らしでは、家が台風に備えた仕組みになっています。現代の家はコンクリートでできていて、かべが白く、屋根が平らになっています。農業ではあたたかいならではの作物があります。観光では世界遺産や海などがある色々見所があります。

多くの児童が沖縄県の特徴である「あたたかいこと」、「台風が多いこと」を捉え、特色を生かした紹介文を考えることができた。その後、学級で紹介文を読み合った。最後に沖縄県を紹介する際には、「あたたかさを生かしたくらしをしていること」、「台風

4 考察

本単元では『DOシート』を2枚用意した。1枚目(D)は教科書や資料集を基に基礎的資料から読み取った事実を記入するもの、2枚目(O)は沖縄県の特徴を気候・農業・暮らし・観光・その他の観点でまとめ、沖縄県の特徴を紹介する文章を考えるものとした。

(1)『DOシート(D)』を活用した比較・関連付けについて

- 『DOシート』を活用した比較・関連付けを行うことにより、沖縄県の特徴を資料を基にまとめることができた。また、資料から読み取った事実を記入することにより、複数の資料を比較・関連付ける活動を児童が進んで行うことができた。
- 複数の資料を比較・関連付ける活動を取り入れることで、教科書の本文と関連付けたり、一つの資料から読み取った事実が他の資料と関連していることを捉えたりしながら、多面的に考察することができた。
- 単元を通して調べ学習を行ったため、与える資料が多くなってしまった。調べ学習の観点を精選し、比較・関連付けるための視点が明確になるような資料の提示をしていく必要がある。

(2)『DOシート(O)』を活用し、沖縄県の特徴をまとめ、紹介文に表す活動について

- 沖縄県の特徴を紹介文にまとめる活動を取り入れることで、沖縄県の特徴を端的にまとめ、相手に伝えるためにどのようなことを書けば良いか考えることができた。
- 社会参画の観点から紹介文を考えさせたかったが、児童にとって、沖縄県の特徴をまとめ、外国人向けの紹介文に表す活動では自分たちの生活に身近に感じることができなかつたり、読み取った事実をまとめるだけにとどまってしまつたりしたことなどから、より良い社会の形成に参画する力を培うことにつながらなかつた。

実践2

1 単元名 「自動車工業のさかんな地域」(第5学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元では、暮らしの中で自動車がどのように使われているか、自動車の良い点・悪い点などを話し合う中で、単元を貫く学習課題「自動車会社はどのような自動車づくりをしているのだろうか」を設定した。そして、組み立て工場の様子を調べた後、実際にどのような自動車が開発されているのかを『DOシート(D)』を基に“人にやさしい”“環境にやさしい”の観点別に調べ、共有した。本時は全11時間計画の9時間目にあたり、『DOシート(O)』を活用し現在の自動車社会が抱える課題を見だし、その課題の解決に向けた未来の自動車、未来の町づくりについて考えた。未来の自動車、未来の町づくりについて考えることで、自分たちが取り組めることがあることに気付くことがねらいである。

3 授業の実際

導入では、前時まで作成した『DOシート(D)』を基にした自動車クイズを行うことで、現在生産されている自動車の特色について振り返った。消費者の願いをかなえる自動車が開発されていることを確認した後、教師が自動車会社の方へ事前にインタビューしておいた内容を基に作成した「自動車会社の人からの手紙」(図3)を読み合った。その結果、まだまだ問題点があるということに気付くことができ、本時の学習課題「自動車社会の課題を解決するためにはどのような車があると良いだろう」を設定することができた。

現在、様々な自動車が開発されています。中でも特に人気があるのはハイブリッドカーや、信号待ちでエンジンが止まるなどの環境に配慮した自動車です。

また、最近は車の周辺をカメラで写し、簡単にそして安全に駐車できる自動車や、自動ブレーキがかかるような安全性を備えた自動車も大変人気があります。

このように、環境や、使う人のことを考えた自動車が開発されていますが、現在の自動車社会には、**まだまだ問題がたくさんあります。**これらの課題の解決に向けて、日々新しい自動車の開発に力を入れています。

図3 自動車会社の人からの手紙

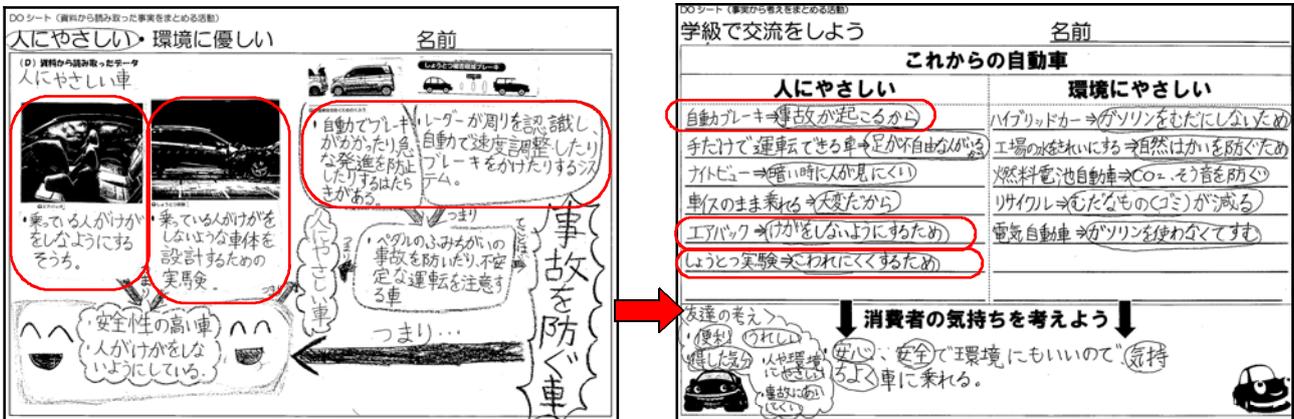
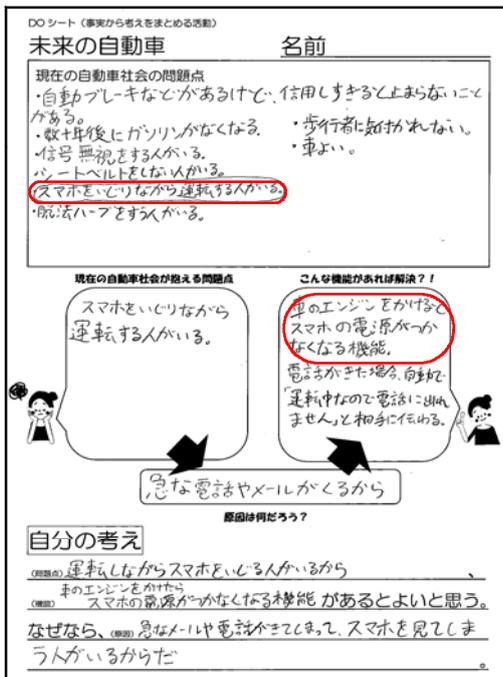


図4 『DOシート(D)』事実をまとめたもの(左側)と特色をまとめたもの(右側)

その後、前時まで作成した『DOシート(D)』(図4)を基に、自動車社会の課題を、「解決できていない課題」、「対策はあるが不十分である課題」、「家の人々が自動車を運転する際に困ったこと」などの視点から考えた。児童が考えた自動車社会の課題は以下のとおりである。

- ・居眠り運転をしてしまう人がいる。
 - ・携帯電話を操作しながら運転する人がいる。
 - ・シートベルトをしない人がいる。
 - ・スピードを出し過ぎてしまう人がいる。
 - ・信号無視をする人がいる。
 - ・ガソリンをたくさん使用する。
- ※主な意見を抜粋

追究の場面では、『DOシート(O)』(次頁図5)を活用し、「課題が起きる原因を考えること」、「その原因を根拠に未来の自動車を考えること」の順で思考できるよう工夫した。児童は、自分が解決してみたい課題や、解決できそうな課題を選択し、その原因を考え、課題を解決できる自動車について考えた。児童がまとめた考えは以下のとおりである。



S 1 : 居眠り運転をする人がいるから、眠気を感じたらゆれるシートがあると良いと思う。なぜなら、しっかり休養をとらずに運転をする人がいるからです。

S 2 : 運転しながらスマホを操作する人がいるから、エンジンをかけたらスマホの電源がつかなくなる車があると良いと思う。なぜなら、急な電話やメールが来てしまってスマホを見てしまう人がいるからです。

S 3 : シートベルトの付け忘れを防ぐために、鍵を回してもシートベルトを付けないとエンジンがかからない機能があると良いと思う。なぜなら、シートベルトを付けることを意識しない人がいるからです。

S 4 : スピード違反の人がいるので、スピード制限の看板や注意を促す看板をもっと多く設置すると良いと思う。なぜなら、看板を見落としてスピードを出してしまっている人がいるからです。

図5 課題と解決策を考えた『DOシート (O)』

未来の自動車を考えていく中で、「現代社会の課題を解決するための手段は自動車の機能以外にもあるのではないか」ということに気付いた児童の意見から、現在の自動車社会の課題に対して、今私たちが取り組めることを考えることができた。単元のまとめでは、学習したことを生かした以下のような児童の意識が見られた。(図6)



図6 児童が考えた「未来の自動車」「未来の町」「振り返りの言葉」

4 考察

本単元では『DOシート』を3枚用意した。『DOシート (D)』を、「教科書や資料集を基に基礎的資料から読み取った事実をまとめるもの」、「現在開発されている自動車の特色を“人にやさしい”“環境にやさしい”の観点でまとめ、消費者の気持ちを考えるもの」と2枚に分割し、『DOシート (O)』を「現在の自動車社会の課題を見だし、その原因と解決策を考えるもの」とした。

(1) 『DOシート (D)』を活用した比較・関連付けについて

- 調べる観点を「人にやさしい」、「環境にやさしい」に焦点化することにより、資料が精選でき、比較・関連付けた際に、意見を集約しながら現在の自動車社会の特色をまとめることができた。
- 『DOシート (D)』を2枚に分割し、調べた事実から現在の自動車社会の特色をまとめることにより、『DOシート (O)』を活用した課題と解決策を考える学習につなげることができた。

(2) 『DOシート (O)』を活用した課題とその解決策を考える活動について

- 自動車社会の課題、原因、解決策という過程で自分の考えを記入したことにより、根拠を明確にしながら解決策を考えることができた。
- 現在の自動車社会の課題を捉え、その解決策を考えることにより、どのような取り組みをすればより良い社会のためになるかが明確になり、児童に社会参画の意識を持たせることができた。
- 児童の意識を自動車の機能だけでなく、どのような取り組みができるかに向けていく必要がある。